

令和元年度 名古屋大学心の発達支援研究実践センター 心理発達相談室活動報告

心理発達相談室は、臨床心理士養成大学院の一種指定校および、昨年度より公認心理師の養成大学院として、院生の訓練機関であると同時に、心理臨床活動を通して地域社会に貢献することを目的としている。

近年、心の問題はいたるところで取り上げられている。臨床実践を取り巻く環境や求められるニーズも多様化しており、後述するが、心理発達相談室が扱う相談内容も多岐に渡る。このような現状の中、いかに臨床訓練を積み重ね、自己研鑽を行っていくかは極めて重要な課題である。心理発達相談室では、平成27年度の「心の発達支援研究実践センター」への改組、他研究科との連携による相談室環境整備などを通して、これらの課題に取り組み続けている。従来どおりの臨床実践、自己研鑽だけでなく、このような新たな視点からのアプローチは、相談室スタッフが実際の視点を持つことに寄与する結果となった。

I 相談員の構成

令和元年度の当相談室の人的構成は、教員12名、指導員32名、大学院生37名、事務職員3名の総勢84名である。室長は、狐塚准教授が務めた。令和元年度の相談室スタッフの名簿を表6に示す。

II 相談活動

1. 令和元年度新規相談受案件数

令和元年度の新規受理面接数は99件であった（表1）。平成30年度の71件に比べ、25件程度増加している。

相談内容別の受理面接数を表2と表3に示す。12歳以前では、発達障害が15件（38%）、情緒障害が24件（62%）であり、本年度は発達障害の件数は前年と同程度であるが、情緒障害の件数および割合が前年と比べて増加して

いた。13歳以降の相談では、親の相談17件（28%）、対人関係10件（17%）、不登校9件（15%）の順で割合が多かった。例年に比べ、親の相談の割合が増加していることや、対人関係、不登校の割合も多く、社会生活に対する相談が増加していることが本年度の特徴の一つといえる。

2. 令和元年度面接種別相談件数

令和元年度の面接種別相談件数を表4に示す。年間の相談件数の総数は2,997回であり、平成30年度の2,872回より100件程度増加した。その要因として、昨年度、第6面接室および第3プレイルームを増設し、面接室が増加したことの影響がうかがえる。

面接種別では、平成30年度と同様に「臨床心理面接」が最も多く、1,067回であった。次いで「並行面接」、「遊戯面接」の順に多いことも前年度と同じである。現在、「集団心理面接」では、平成21年度から始まった発達障害児を持つ両親を対象としたペアレントトレーニングを実施しており、本年度は20回で、担当教員が前期半ばまで不在であったことから、前年度からは大きく減少した。

月別の相談件数の推移を見ると、最も面接数が多いのは3月であり、最も少ないのは5月であった。5月は大型連休もあることから、その影響がうかがえる。年間を通して、「臨床心理面接」は80～120回程度、「並行心理面接」は60～100回程度、「遊戯面接」は50～80回程度とかなりのばらつきがみられた。

名古屋市の委託事業として実施している自死遺族カウンセリングの新規受理面接数は1件であった。

III 研究活動

当相談室の研究活動としては、リサーチ会議、各種研

表1 受理面接ケースの年齢、性別

性別／(年齢)	乳幼児 (0～3)	就学前 (4～6)	小学生 (7～12)	中学生 (13～15)	高校生 (16～18)	大学生・成人 (19～)	計 (%)	自死遺族 カウンセリング	震災による 心のケア
男	2	7	15	10	4	6	44 (44)	0	
女	2	3	10	5	2	33	55 (56)	1	0
計 (%)	4	10	25	15	6	39	99 (100)	1	0
	39 (39)			60 (61)					

表 2 12歳以前の相談内容別受理面接数

診断 (主症状)	件数 (%)
発達障害	15 (38)
自閉スペクトラム症	9
知的発達症	0
注意欠如・多動症	4
限局性学習症	2
情緒障害	24 (62)
親子間の問題	6
不登校	8
不安症 (選択性緘黙、神経性習癖等)	6
集団適応・友人関係	3
虐待	1
その他	0
計	39 (100)

表 3 13歳以降の相談内容別受理面接数

相談内容	件数 (%)
パーソナリティ障害	6 (10)
神経発達症	6 (10)
対人関係	10 (17)
不安症 (心的外傷後ストレス障害、選択性緘黙、強迫症等)	3 (5)
抑うつ障害	1 (2)
思春期・アイデンティティ	6 (10)
統合失調症	0 (0)
不登校	9 (15)
夫婦関係	0 (0)
摂食障害	1 (2)
親の相談	17 (28)
精神障害	0
神経発達症	11
子ども不登校	2
親子関係	4
その他	0
その他	1 (2)
計	60 (100)

研究会の開催、相談室紀要の刊行が挙げられる。相談室スタッフによる国内外における学会発表や学会誌への投稿も積極的に行われている。

令和元年度のリサーチ会議の内容を表5に示す。令和元年度は、院生スタッフによる研究発表が1回、外部講師による講義が1回、他大学から院生を招き、院生らによる事例検討会が1回行われた。本年度は例年に比べ、外部からの講師が多く、様々な方面からの講義や臨床経験を知る有意義な機会となった。今後もリサーチ会議の場を、スタッフの研究活動や臨床実践の活性化に役立つ場としていきたい。その他院生が主体となった勉強会や各研究会活動も活発に行われた。

年1回発行している相談室紀要では、令和元年度は1編の調査論文および事例論文が2編掲載され、近年の親子関係についての調査や、相談室活動を通しての研究実践報告が行われた。

学外での相互研鑽の機会として、令和元年度は「五大大学合同事例検討会」が開催された。これは、心理相談室をもつ国立大学のうち、東大、京大、広大、九大および名大の五大学の大学院生が主体となって開催するものである。令和元年度は九州大学が主幹校となり、7月に福岡県にて開催された。事例検討会が開かれ、それぞれの大学からの参加者と、臨床実践についての活発な意見交換が行われた。加えて、この貴重な機会を有意義なものにしようと本校の大学院生たちが協力し、12月に行われたリサーチ会議においても活発な議論を繰り広げたことも特筆すべき点である。

IV 教育・訓練体制

当相談室の教育・訓練体制の中心は木曜日の午前中に行われるケース会議である。ケース会議では、新規に受付した事例に関する報告や諸連絡事項の伝達を行う全体

表 4 令和元年度 面接種別相談件数一覧

	平成31年		令和元年					令和2年					合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
受理面接	6	4	11	9	11	8	12	4	7	7	4	13	96
ガイダンス面接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査面接	0	3	1	3	2	1	3	5	7	0	2	5	32
遊戯面接	57	52	63	71	52	79	76	76	65	74	78	71	814
臨床心理面接	70	72	73	87	81	98	94	95	95	96	90	116	1067
並行心理面接	69	64	66	69	65	86	80	85	79	83	93	103	942
集団心理面接	0	6	2	7	0	5	0	0	0	0	0	0	20
家族合同面接	2	2	1	1	2	2	2	2	3	2	2	5	26
計	204	203	217	247	213	279	267	267	256	262	269	313	2997
自死遺族カウンセリング	4	4	4	7	4	5	3	3	3	3	0	1	41
震災による心のケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表5 令和元年度 心理発達相談室リサーチ会議ほか一覧

	演 者 (所 属)	題 目
第1回 (2019年7月4日)	横山佳奈・吉田翔子 (名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 精神発達臨床科学講座 博士後期課程2年)	JASPERプログラムの理論的背景と実践
第2回 (2019年10月31日)	井上香奈子先生 (愛知県中央児童・障害者相談センター 企画・児童指導課)	児童虐待の理解と対応
第3回 (2020年12月19日)	司会進行：原田雅也 (名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 精神発達臨床科学講座 博士後期課程2年)	プレイセラピーの難しさと面白さ
	企画説明：金子一史 (名古屋大学 心の発達支援研究実践センター)	
	話題提供：田中将司 (九州大学大学院 人間環境学府 人間共生システム専攻 博士後期課程3年)	
	話題提供：長谷雄太 (京都大学大学院 教育学研究科 教育学環専攻臨床心理学講座 博士後期課程1年)	
	話題提供：横山佳奈 (名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 精神発達臨床科学講座 博士後期課程2年)	
	指定討論：田附紘平 (名古屋大学大学院 教育発達科学研究科)	

会の後に、5分科会に分かれて約2時間をかけてケース検討を行っている。ケース会議は、臨床心理士養成課程の「心理臨床研究実習Ⅰ」として位置づけられており、相談室の運営とケースの担当およびそのスーパーヴィジョンを受けることも含まれている。

スーパーヴィジョン制度は、ケース会議と並んで、相談活動の技量を高めるために大きな役割を果たしている。新規スタッフは、当相談室教員を特定のスーパーバイザーとし、初年度の臨床実践指導を受けることが必須となっている。その他の大学院生スタッフは、ケースごとに教員や指導員、あるいは学外の臨床家によるスーパーヴィジョンを受けている。

相談室以外の教育訓練の場である実習については、医療領域、教育領域、産業領域、司法領域、福祉領域と幅広く充実した体制がとられている。これらは、昨年度より、公認心理師の養成課程の一つである「心理実践実習」においても、単位として位置づけられており、相談室内外の実践の場がより重要な教育訓練の場となっている。

加えて、平成23年度から臨床心理士養成課程における大学院のカリキュラムが改訂され、前期課程1年の院生向けの講義を統合した「臨床心理学研究Ⅰ」「臨床心理学研究Ⅲ」がスタートしている。電話受付ガイダンス

もこの講義の中に位置づけられている。

平成24年度から、相談室運営実習として、受付事務、資料整理、電話対応など、さまざまな相談室運営に関わる活動を体験する実習を実施している。

また、近年社会的にも重要視される個人情報の保護に関しては、平成25年4月の相談室ガイダンスから、相談室長による個人情報保護に関する研修会が行われている。

V 相談室運営

当相談室は、教員から構成される相談室運営委員会、および教員（相談室長・臨床研究助手）と大学院生の各学年代表および各係代表から構成されるスタッフ委員会を組織し、相談室活動全般の企画運営を行っている。いずれも毎月1回の定例会を開催し、意見交換を行うとともに、相談室の諸問題を検討する場としている。その他にもスタッフ全員が参加するスタッフミーティング（定例では7月と3月の年2回）を開催して、円滑な相談室運営やスタッフ間の情報共有を心がけ、全構成員による運営を実現するよう努力している。

(文責：井手しほり)

表 6 令和元年度 心理発達相談室スタッフ

教 員	狐塚 貴博(相談室長)					
	松本 真理子	・	金井 篤子	・	平石 賢二	
	河野 莊子	・	永田 雅子	・	金子 一史	
	野村 あすか	・	田附 紘平	・	野邑 健二	
	福元 理英	・	井手 しほり			
指 導 員	五十嵐 哲也	・	石川 雅健	・	伊藤 義美	
	伊藤 亮	・	今村 友木子	・	大崎 園生	
	蔭山 英順	・	葛 文綺	・	加藤 大樹	
	加藤 容子	・	川島 一晃	・	川瀬 正裕	
	清瀧 裕子	・	窪田 由紀	・	後藤 秀爾	
	小林 佐知子	・	三後 美紀	・	杉岡 正典	
	鈴木 健一	・	鈴木 亮子	・	瀬地山 葉矢	
	千賀 則史	・	高橋 靖子	・	田畑 治	
	坪井 裕子	・	西出 隆紀	・	西出 弓枝	
	堀 美和子	・	丸山 宏樹	・	森田 美弥子	
	山内 星子	・	山口 智子			
	大学院生DC	小橋 亮介	・	肖 瀛子	・	福田 律子
		原田 雅也	・	横山 佳奈	・	吉田 翔子
伊藤 拓		・	酒井 麻紀子	・	鶴田 裕子	
深谷 麻未		・	古橋 健悟			
大学院生MC	伊藤 寿津	・	王 斉秀子	・	大塚 毬絵	
	大西 彩奈	・	金井 志保	・	内藤 円佳	
	野村 菜月	・	福井 ゆたか	・	二村 真太郎	
	松浦 涉	・	三浦 愛理	・	茂苺 梓沙	
	今下 美月	・	占部 のぞみ	・	大西 花奈	
	鹿島 千咲	・	金沢 直輝	・	川浦 千明	
	川野 真帆	・	桐林 明咲	・	國井 千瑛里	
	芝 啓太	・	清水 溪介	・	松尾 紗希	
	村瀬 凜	・	リマ マユミ			
受 付	小笠原 順子	・	長谷川 千里	・	原 雅子	